

【 身近な草・木・花 6月 】

ナツツバキ 別名；シャラノキ ツバキ科、落葉高木 花期；6~7月
場所；3号棟北側、7号棟北西、北法面 8-9号棟間付近

6~7月に、ツバキによく似た真っ白の清楚な花をつける。花は一日花。一日を咲き、一日で散っていくはかない花。雨の重みとともに、ポトリと落ちる。花の命は短く、それがこの花の定めであるだけに見る人の心に響く()。



(上)ナツツバキの花 (写真 14 6/13)

ツバキに似た花で、夏咲くのでナツツバキの名がついたが、別名シャラノキとも呼ばれている。これは、仏教の聖木である沙羅双樹(サラソウジュ)に見立てたもの。インド原産のシャラノキは、樹高が40メートルにもなる高木であるが、寒さに弱く、日本では育たない。日本のナツツバキは高木に分類されるが、樹高はせいぜい15メートルほどである。

インドの
シャラノキの花
(HPから)



ナツツバキの特徴は樹皮がなめらかで、ところどころはげ落ちて、淡い灰赤褐色となるので、他の木と区別がつく。(ただし、サルスベリと間違えられやすい)。庭木、公園樹として植えられている。



(左)ナツツバキの蕾 (14 6/13)



(中)7号棟のナツツバキ



(右)ナツツバキの幹

ムラサキシキブ クマツヅラ科、落葉低木 花期；6~8月 果実；10~11月
場所；4号棟南~西、6号棟北側、8~9号棟間の北法面上段

ムラサキシキブといえば、紫色の美しい木の実を思い浮かべますが、実がなるということは花が咲くということ。その花が、この6月に見られます。



(上) ムラサキシキブの花 (15 6/10)



(右) 花の拡大

ムラサキシキブの花は長さ3~5ミリの小さな花です。写真の部分拡大してみれば、花の上部は4枚の花弁のように分かれています。根元はくっついて筒のようになっています(合弁花)。白く飛び出した雌蕊と、黄色い花粉をつけた雄蕊が4本見えます。



(左) ムラサキシキブの蕾
(14 6/13)



(中) 紫色が美しい実
(13 11/1)



(右) 北法面のムラサキシキブの木

ムラサキシキブの花は、8~9号棟間の北法面上段が観察しやすいですが、法面は足場が悪いので、気をつけて観察してください。

アジサイの変わり種

アジサイはまた別の機会に取り上げたいと思いますが、今回はアジサイに先だって咲き始めるアジサイの変わり種を紹介しましょう。

カシワバアジサイ ユキノシタ科 落葉低木 花期;6月 東法面の随所

6月に、長さ20~25センチほどのみごとな円錐形に花をつける。花の色は白色。この円錐形の花柱も見事だが、その花を拡大・接写してみると、その造形美がまたなかなか素晴らしい。

葉は5~7裂の浅い切れ込みがあり、柏の葉に似ているので、この名がついた。晩秋の赤銅色の紅葉もなかなか素晴らしい。



(左) 円錐形のカシワバアジサイの花 (14 6/16)
葉は柏の葉に似ている

(右) 東法面に咲き乱れるカシワバアジサイ (同日)



(左) 花を拡大してみる (14 6/25)、 (右) 7月になると花に赤みが差してくる (13 7/13)
この造形美がおもしろい。

ミナツキアジサイ (水無月アジサイ) ユキノシタ科 落葉低木 花期；7~9月 東法面北東付近



植物に親しむページ 〔6月〕

暑い時期の7月から9月にかけて花を咲かせる。(水無月は陰暦6月を意味する。)

花を円錐状に咲かせることからピラミット・アジサイとも呼ばれる。カシワバアジサイの仲間(HP)。

少し補足すると、葉はヤマアジサイに似ている。しかし、花はカシワバアジサイのように円錐形をなしている。他のアジサイが終わりかけたところに咲きだす。(写真は 14 7/25)

ヤマアジサイ ユキノシタ科、落葉低木 花期；6~7月 1号棟東方向の東法面下段

1号棟東方向の東法面下段に数種類のヤマアジサイがある。

ガクアジサイより全体に小ぶりで繊細な感じ。花付きもまばら。園芸種のガクアジサイの原種のような感じだが、さまざまな種類がある。葉は、幅広いアジサイの葉に比べ、ヤマアジサイは細長く、先がすうっと尖っている。(この部分は私の感じで、必ずしも正確ではありません)

ヤマアジサイとはどんな花か説明するのはむずかしい。とにかく実物を見るに限る。

では、東法面で見られるヤマアジサイを次に紹介します。



(上) ヤマアジサイ・美方八重(ミカタヤエ) (14 5/30) とその拡大



(左) ヤマアジサイ・ベニガク (14 6/16)

(右) ヤマアジサイ・種類不明 (14 5/30)

このヤマアジサイは時期により、年により、ずいぶん印象が変わってくる。



(上左) 花付きがまばらだったり(14 5/30)、
(上中) 下に垂れていたり(14 6/16)、
(上右) 裏返すとこんな似ても似つかない感じ(15 6/22)。
しかし、よく見ると始めの美方八重のようだ。

(右) ペニガクも年により感じが変わる(15 6/10)



トキワツユクサ ツユクサ科 花期；5～8月 場所；居住区や法面の低木の根元など

南アメリカ原産。日本には昭和初期に園芸植物として渡来したが、現在では野生化している。

日本のツユクサとは違い、三角形の小さな白い花を咲かせる。やや湿っている日陰や水辺に生え、群落を形成する。

当初、バス停裏の緑化ブロックの下で見つけたので、これも工事で運ばれたのかと思ったが、その後、居住区や法面の低木の根元など、何か所も群生しているのが見つかった。多摩市の植物目録にも載っていた。つまり、当地だけでなく、かなり広い範囲に広がっていることが分かった。常緑の多年草。



(左) トキワツユクサの花 (16 5/26) (右) 今年は低木の植え込みの中にも伸びていた。(5号棟南東)

【参考書】 ～ は5月号参照。

『花の風物誌』 釜江正巳著 八坂書房

(写真・文；I)